



甲状腺エコー検査を通して確認しましょう！

2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故により、多種多様な放射性物質がサイト外部にでてしまいました。事故直後の国の評価では放射性ヨウ素は放射性セシウムの約10倍放出されたとされています。初期被ばくの主役である放射性ヨウ素の拡散については未解明のことが多く、一人一人の正確な被ばく量の評価が困難です。体内での放射線被ばくの影響は時間をかけて現れてくる可能性があり、とりわけ、放射性ヨウ素の影響が最も現れやすいとされる甲状腺の状態を把握・確認するための方法のひとつが甲状腺検査です。

2011年10月以降、福島県内では震災当時18才以下だった子どもを対象に、政府予算による甲状腺検査などが行われています。一方、丸森町を除き、宮城県では公的な健康調査（甲状腺検査）は行われておりません。宮城県内においても放射能や低線量被ばくによる健康影響への不安を覚える保護者の方は少なくありませんが、ご安心いただけるようにと医師による検診を通して具体的根拠をご提供させていただき、これまでのべ2000人以上の甲状腺検査を実施して参りました。（2016年2月以降、川崎町では3回目の実施となります。）

甲状腺に病変があるかどうかを調べる超音波（エコー）検査は身体に害がなく、痛みもありません。検査にかかる時間はお一人3～4分程度ですぐに終わります。保護者の方と検査画像を一緒に見ながら、検査結果については医師が説明を行い、検査写真を含めた報告書をその場でお渡しします。

検診は無料です。震災当時18才以下の希望者（現在5才以上の子ども）ならどなたでも受診できます。子ども優先ですが、保護者の方など、対象年齢外の方も検査をご希望される場合はご相談下さい。リピーターのお子さんも歓迎です。

検査協力：放射能問題支援対策室いずみ

